

risei + trip

vol.
23



特集

フリーランスで
働くということ。

フリー・ランスで働くこと。

履正社専門では、様々な医療国家免許やスポーツ関連資格が取得できる。

そして、手に職（資格）をつけることで拓ける進路は、就職だけではない。

やりたいことが明確なら、フリー・ランスという道を選ぶこともできるのだ。

現在フリー・ランスとして働く卒業生、そして、それを目指す在校生の姿を追った。



①本校には、集客方法、競合分析、広告方法やSNSの運用、強みを活かすセルフプランディングなどについて学べる授業がある ②柔道整復学科では、独立開業支援のサポートも充実 ③本山さんの働き方はフレキシブル。お客様の自宅に出張レッスンや施術に行くことも



photographs by Haruo Kotera

仕事も学びも、時間の使い方は自分したい。

フリー・ランスとして働き始めてしばらく経ったある日、神戸でプライベートサロンを開いていた友人から、「遠方に引っ越すことになったから、この場所を使わない?」と声がかかった。縁もゆかりもない場所だったが、持ち前の思い切りのよさで急遽サロンを持つことに。開業当初のお客様は数えるほどしかいなかつた。しかし、スタジオレッスンの参加者が徐々にサロンにも来てくれるようになり、宣伝をせずともお客様が自然と増えていった。

フリー・ランスになったことのメリットは大きい。まず、自由にスケジュールを調整できるようになった。さらに、空いた時間を利用して様々な勉強会やセミナーに積極的に参加したり、新たな資格取得ための勉強をする時間も確保できるようになった。サロンを開いて3年目には本校の鍼灸学科に再び入学し、鍼灸師の資格を取得。仕事の幅が広がった。

「企業で働いていると、自分で意思決定できる範囲って案外狭いんです。一方フリーは、すべての決定権が自分にあります。だから、やりたいことがはっきりしていける人は向いているかもしません」

トレーナー歴20年、サロン開業歴11年の本山さんは、今後も自分の人生を、自分の力で切り拓いていく。

勉強が「苦しみ」ではなく「楽しみ」になった理由。

パーソナルトレーナーコースで学んでいる学生に、「やりたいことがはっきりしている人」がいる。入学後すぐに、「将来はフリー・ランスで働く!」と心に決めた、2年生の町尻希さんだ。

町さんは、高校生のときに身体を鍛える楽しさを知った。本校に入学後、トレーナーとして独立開業している教員に出会い、頑張りついで結果が得られるフリー・ランスという働き方に興味が湧いてきた。

「将来は、自分のジムを開きたいです。そして、身体の不調を抱える人や、理想の体型を目指す人のボディメイクをサポートしたい。叶えたい夢がはっきりした瞬間から、勉強がさらに楽しくなりました。学校での授業や実習の日々が樂しすぎで、祝日に間違えて登校したこともあります(笑)」

高校生のときは勉強が苦手だった。現在は、「授業で学んだことは、実習などの現場で必ず役に立つ」という実感があり、「知識を得て技術を高めることに、無駄は一つもない」と、前向きに学ぶ。自分の夢のためにも、未来のお客様のためにも、学ぶこと、成長することをやめるつもりはない。

就職でもフリー・ランスでも、専門学校で得た知識、技術、人脈、専門資格は武器になる。そして、学び続けることをやめない人に、お客様は信頼して身を預けてくれる。本山さんは卒業生は身をもつてそれを示し、町さんをはじめ、在校生はそれに続く。これまで、そしてこれからも。

本山小百合さんは、旧トレーナーコースの卒業生。神戸の閑静な住宅街で、プライベートサロンを一人で経営している。鍼灸治療、ピラティス、ヨガなどをお客様にトータルボディケアを提供するパーソナルトレーナーだ。開業当初から口コミだけでお客様が増え、今で開業11年目。そんな彼女だが、卒業当時から開業を目指していたわけではなかった。

「卒業後はフィットネスクラブに就職して、水泳、ヨガ、ピラティスなどのグループレッスンや、パーソナルレッスンをしていました。就職して6年経った頃、「ここでの仕事はやり切った」という実感があり、思い切って辞めることにしました。ちょうどそのタイミングで、『フリー・ランスでスタジオレッスンをやってほしい』と知人に頼まれたんです」退社とともに、これまでの熱心な働きぶりを見ていた人から、仕事の依頼が舞い込んできたのだ。